



行政と大学の協働による地域の未来づくり

成果発表会

(事前申込制・参加無料)

2026年1月14日(水) 13:00~16:00
愛知大学豊橋校舎 Center Bldg.110教室

今年度の秋学期に初めて開講した「東三河県庁と愛知大学の連携講座」。この講座では、東三河県庁の若手職員と愛知大学の学生がグループを組み、東三河の未来につながる政策提案に取り組んできました。今回、両者が共に学び、考え、創り上げた成果を多くの皆さまに報告します。

13:00 開会 (12:30 受付開始)

<あいさつ> 愛知大学 学長 広瀬 裕樹

愛知県 副知事 江口 幸雄

<趣旨説明> 愛知大学 地域政策学部 戸田 敏行

13:30 成果発表

- 豊川流域圏の交流づくり
- 外国人共生協働のまちづくり
- 渥美半島の農業
- 親しまれる港「三河港」へ

15:15 講評



参加申込

右のQRコードから必要事項を登録してご参加ください。

【定員300名】

【申込締切:1月12日】

<https://forms.gle/DRpGdvBWVHs1FMVD8>



【お問い合わせ】

愛知大学豊橋教務課 (担当: 菅谷、太田) 電話: 0532-47-4117 メール: tkyomu@ml.aichi-u.ac.jp

東三河総局企画調整部企画調整課 (担当: 大橋、日高) 電話: 0532-35-6100 メール: higashimikawa@pref.aichi.lg.jp

東三河県庁と愛知大学の連携講座

東三河県庁と愛知大学の連携講座は、両者がこれまでに締結した連携・協力に関する協定に基づく新たな取組として開講しました。最大の特徴は、東三河県庁の若手職員が「メンター」として学生5名とグループを組み、講座やフィールドワーク、グループワークに至るまで一緒に行動し、成果を創り上げたことです。

学生が東三河地域の現状や課題、展望などについて学び、課題を解決する政策を自ら立案することで、企画提案スキルの向上を図ると同時に、県職員への親しみや職業としての魅力を体感することができたのではないのでしょうか。また、県職員にとっても、新たな発想や社会ニーズといった県行政に有用な見識を深めたり、政策立案能力や説明スキルを向上させたりなど、キャリア形成に大きく役立つ講座となりました。

県職員と愛知大学の学生が協働して東三河地域の未来について考えることを通して、地域の活力創出に貢献したいと思います。皆さま、お誘いあわせのうえ、ぜひお越しください。

発表の概要

豊川流域圏の交流づくり

豊川の水に関係する地域は豊川流域圏と呼ばれ、導水・用水により愛知県・静岡県・長野県に跨ります。この地域は2034年度完成予定の設楽ダムにより、災害に強く安定した水利用が期待されます。

一方で、豊川流域圏にとつての課題の一つとして、水源地域である奥三河地域では少子高齢化等による人口減少が進んでいることが挙げられます。私たちは、水源地域を元気にするために『水源地域との交流』という手法に着目して、政策を提案します。



外国人共生協働のまちづくり

東三河地域には多くの外国人が生活しています。

これからの東三河地域には、国籍や文化の異なる人々が相互理解し、対等な関係のもと地域の一員として共に生きる「外国人との共生」が、今以上に大切になると考えています。私たちのグループは日本人と外国人が安心して楽しく暮らせる社会の実現を目標とし、4つの柱（1. 交流の場づくり 2. 文化理解やルールを学ぶ機会の提供 3. 言語対応の充実 4. インバウンドの拡充）を軸にした政策を提案します。



渥美半島の農業

愛知県農業は全国8位の産出額を誇り、市町村別では田原市が2位となるなど、東三河は花き・野菜・畜産など多様な品目で強みを持つ一方、担い手不足や高齢化、地産地消が進んでいないことが問題点として挙げられます。

講義では新規就農者確保の課題と既存の農家の大規模化による生産維持、需要拡大の取組、「食と農」をつなぐ取組の重要性を学びました。私たちの提案は、次世代に地域農業に関心をもってもらうにはどうしたら良いかという視点から、新規就農者の確保・育成、地産地消の推進を図るものです。



親しまれる港「三河港」へ

三河港は、輸出自動車取扱台数で全国第2位、輸入自動車取扱台数で32年連続全国第1位の世界に誇る自動車港湾です。その一方で、その存在や役割は県民にあまり広く知られていない現状があります。

私たち「三河港チーム」は、半年間の学びを通じ、この港が持つ「親しまれる港」としての可能性に注目しました。三河港が果たす役割や魅力について、県民に広く知ってもらいたい——そんな思いで、今回の成果発表会に臨みます。

